



JSQC ニュース

No.357

CONTENTS

- 1-トピックス 日本品質管理学会臨時総会報告
- 2-私の提言 エネルギー社会インフラの品質とiパワードエネルギー・システム
- 2-研究会だより 医療のIoTの質管理
- 3-第394回事業所見学会ルポ/新規ワークショップ申請受付/3・4月の入会者紹介
- 4-行事案内/選挙告示

発行 一般社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

日本品質管理学会臨時総会報告

日本品質管理学会 会長 椿 広計

第44年度に大久保尚武前会長が示したQのSHINKA方針の具現化として、JSQCは、日科技連、規格協会と協働して、日本の品質活動を支える緩やかな連携組織としての日本品質協議会 (Japan Association for Quality、略称JAQ) を2018年11月に創設することとなっています。JAQは、独自の普及啓発事業を行いませんが、日本を代表する品質活動の組織として、あるべき品質管理活動に関わる提言、広報、学術機関・若手研究者などの支援を行うことを目指しています。JAQ設立に伴い、JSQCは日科技連や規格協会とは違った側面でJAQないしは品質管理活動を支えるために、第47年度からの学会活動重点化について、議論してまいりました。こうして定款を含め、活動の根幹に関わる規定類改訂を行うこととしました。

昨年11月の通常総会で、第46年度中に臨時総会を開催し、総会の議決を要する改訂事項を処理することを予告したところです。今般、規定委員会、理事会の議を経て、臨時総会にかける定款・規定の改訂案が整い、第113回研究発表会の開催に合わせ5月27日に日本科学技術連盟・東高円寺ビルで臨時総会を開催致しました。ここでは、今回の定款・既定の改訂の狙いについて報告します。

今回の学会定款・規定類改訂には2つのポイントがあります。

一つは、学会の学術的活動以外の

事業を研究活動、職域的活動、地域支援活動に重点化し、その運営を行う担い手組織・運営体制を確立することです。品質管理に関する研究活動の担い手は、原則として既存の部会、あるいは新設部会に集約します。従来の計画研究会・公募研究会は、これら部会活動と整理します。また、職域分野別の情報共有・問題解決を目指し、職域会員のための職域分野別部会を新設し、職域会員は自身が所属する職域に合致した職域別部会に入る権利を有することとしました。職域別部会についても、計画研究会や公募研究会を設置し、職域に関わる新たな品質管理活動の在り方を研究開発することが望まれます。なお、研究会は複数の部会に跨って設置できる仕組みも設けています。関連して、これまでJSQCの活動を支えて下さった賛助会員が、一口1名の職域会員を登録できる権利も明記しました。賛助会員で品質活動の先頭に立っている方々にぜひJSQCの活動を肌で触れていただきたいという思いもあります。

次に、地域会員間の研究や品質管理活動の交流については、支部が担うことといたしました。クオリティトーク等や事業所見学会などは、これまで本部も行っていました。しかし、この方針に伴い、中部支部、関西支部に加えて、東日本支部、西日本支部を支部規定に位置づけました。ただし、既存支部と異なり、新支部は独自の事務所は設置せず、学会事

業予算を配分するとともに、独自の地域事業を行うこととしています。もちろん、支部はコミュニケーション活動だけではなく、難易度の高い地域の品質問題について、産学連携で解決する場として機能することも強く期待しているところです。

これら部会・支部の活動を統括する組織として、これまでの事業・学会誌編集・広報・標準などの委員会を学会活動委員会に統合しました。部会・支部活動が、品質誌の解説・招待論説として、あるいは試行中のネットによる中継システムの活用と組み合わせ、学会員に共有される仕組みができればと考えています。

さて、もう一つの今回の定款・規程の改訂の狙いは、学会創設時から学会を担われてきた会員の方々へのサービスを充実させることです。学会に長期入会されてきた方について、正会員（シニア）、正会員（永世シニア）という区分を設け、会誌など印刷媒体での送付をご容赦いただければ、会費の減免を実施可能といたしました。加えて、学会活動をリードしている正会員については、JSQCフェローの資格を認定することも可能としたところです。

今後46年度理事会は、支部の立ち上げ、新部会の立ち上げを47年度に実現するために、様々な準備を行う所存ですので、会員の皆様方には何卒主旨理解の上、ご協力ご指導賜れば幸いです。

● 私の提言 ●

エネルギー社会インフラの品質と
i-パワードエネルギー・システム

電気通信大学 i-パワードエネルギー・システム研究センター 准教授 横川 慎二



私の勤務する電気通信大学 i-パワードエネルギー・システム研究センターは、深刻化するエネルギー・環境問題の解決

と我が国の産業競争力向上に貢献する目的のもと、具体的かつ重要な課題をグローバルな視点で抽出し、解決に必要な技術シーズの研究と、ソリューション開発を指向しています。

地球温暖化は将来的に100年単位で継続し、生態系の変化や海面上昇など、環境や社会に重大な影響をもたらすと予想されています。その対策として

CO₂排出量を抑制した社会を構築することは、わが国のみならず世界的な喫緊の課題の一つです。それに向けて、変換効率を革新的に向上させる太陽電池や、高エネルギー密度と安全性を両立する新しい蓄電池などの技術について、すでに数多くの人員と予算が投入され、研究開発が進められています。我々は、それらを統合、実装するための、情報通信に駆動された (Info-poweredな) エネルギー社会インフラ基盤を設計・構築することが必要不可欠と考えています。

長期の使用を前提とする社会インフラには、変化し続ける環境条件に対して、柔軟かつ動的に対応可能な品質が求められます。エネルギー社会インフラにも、拡張性、フォールトトレラン

ト性、保全性を確保し、かつシステムにレジリエンスを付与しなければなりません。そのためには、災害に対する堅牢性だけでなく、機能停止することなく更新可能な、新陳代謝の機能を付与することが鍵となります。

我々の身体は、新陳代謝によって約3ヶ月で新たに入れ替わります。それによって新しい形質と能力を獲得し、活動を維持します。この細胞の恒常性維持のメカニズムのように、外部刺激に応じて状態を評価・分類し、予測に基づいた機能変化と代謝経路の制御を行う能力が、エネルギー社会インフラの品質確保に必要となるでしょう。

その実現のため、ICTと予測分析を最大限に活用した革新的なエネルギー社会インフラと、その信頼性・品質の技術を世界に先駆けて確立することが、未来の産業創造と新たな価値創出に繋がるのではないのでしょうか。この挑戦と展開には、広い分野の専門性の連携が必要です。今後、HP (<http://www.iperc.uec.ac.jp/>) にて成果報告や講演会の開催をご案内致します。皆様の御参加をお待ちしております。

研究会
だより

医療経営の総合的「質」研究会

医療のIoTの質管理

主査 永井 庸次 (日立製作所)

医療経営の総合的「質」研究会は産業界、医療界、アカデミア、病院の質研究者、企業の質研究者等が一堂に集まって、医療のTQMに関して政策提言や啓もう活動を実施している。この3年間は主に病院の生体情報モニタ (心電図モニタ、血圧モニタ、酸素飽和度モニタ) やナースコールの患者装着から発生している過剰で無駄で迷惑なアラーム信号に関する検討を各種生体情報モニタ・ナースコールベンダ、病院の臨床工学技士・看護師と一緒に検討してきた。

米国では生体情報モニタのアラーム信号関連事故が多発した結果、国家的レベルで種々の取り組みと規制を行い、着実にその成果を上げてきている。一方、我が国では、医療機器に関する安全管理体制は薬剤などの安全管理と同様に医療法でも規定され、かつ薬機法として新たな法改正が行われているにもかかわらず、未だ、個々の医療者、看護師の献身的な努力と責任の下で遅々として改善が進んでいない。

研究会では、このような現状を踏まえ、産業界のアラームとの違いを含めて、研究会参加病院で生体情報モニタのアラーム信号に関する改善活動を3年間実施し、アラーム信号の実態の可視化、無駄なアラーム信号削減対策、アラーム信号に関する看護師の不遵守の実態、アラーム対応に関する看護師教育等を行ってきた。本年度はその成果を踏まえて、各種報告会、成書化など行う予定である。

また、研究会では、従来から電子カルテの普及に伴う有用性と危険性、電子カルテ情報を含めたデジタル情報と各種モニタリングシステムとの統合による医療のビッグデータ解析時代における課題 (機械学習、深層学習、NLP、AI等) を検討してきた。しかし、5月13日に発生した世界的規模のランサムウェアは我が国でも被害があり、その脆弱性と情報の機微性・ハイリスク性の観点から医療界も早急に対策を構築する必要がある、今後、医療におけるサイバー攻撃対策にも研究の場を拡大していく予定である。

第394回 事業所見学会 レポート

日産車体(株)湘南工場

季節外れの暑さが一段落した2017年4月20日、日産車体(株)湘南工場（神奈川県平塚市）で第394回事業所見学会が開催された。湘南工場は、平塚駅からバスで5分（歩いて20分程度）という好立地でありながら、日産車体の本社機能と車体溶接、塗装、組み立てなどの生産機能を併せ持つ最大拠点である。また、同工場では、世界的にも類をみないモノコック車両とフレーム車両の混流生産を実現しており、今回の事業所見学会の見どころであった。

工場見学では、ワンボックス車、SUV、ピックアップなど6車種が混流生産されている様子を紹介いただいたが、一台ごとに色も形も違う車が流れている様は、圧巻であった。この実現のために改善が随所に施されていて、QCサークル活動が活発に行われていることが感じられた。また、近隣の小学生の工場見学で親し

みがもてるようにと台車に動物の絵を使うなど、やさしい配慮もあり、印象的だった。

工場見学の後に、工場長の梶井様より「日産車体の品質経営ーグローバルNo.1品質の取組み」のご講演をいただいた。QFDを核とした製品開発とダイレクト・コミュニケーションによる品質把握と品質改善により、現在は日産グループの中でもトップクラスの品質を達成しているとのこと。目標達成シナリオシートやQA表など、ツールの工夫が行われていて、QFDを広範囲に適用している良い事例となっている。

質疑応答では、参加者から時間一杯とぎれることなく沢山の質問がなされた。質問は、混流生産やQFDのことだけでなく広範囲な内容であり、内容的に答え難い質問もあったのではないと思うが、全ての質問にオープンかつ丁寧に回答いただいたので、とても参考になった。

最後に、お忙しい中、対応いただいた工場長の梶井様を始め日産車体(株)湘南工場の皆様、そして、今回の事業所見学会を企画いただいた、東京理科大学の鈴木教授および東海大学綾野教授に感謝いたします。

筒井 勝典（ソニービデオ&サウンドプロダクツ(株)）

新規ワークショップ申請受付

研究開発委員会では、新規ワークショップの申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員をリーダーとするワークショップを歓迎いたします。

ワークショップとは気軽に参加できる問題検討の場であり、学会員が現場ベースで交流し、産業界等の品質管理に関するニーズを理解し、サポートできるような場を提供し、問題解決を図ることを目的としています。

期 間：承認日から最長1年間

申請方法：「新規ワークショップ設置申請書」（様式204-4）をホームページ http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html よりダウンロードし、ご記入の上、電子ファイル送信と共に申請書を郵送で本部事務局宛にお送りください。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本品質管理学会 事務局 Eメール office@jsqc.org

申込締切：随時受け付けます。

ワークショップの申請と運営：

- 申請方法は2種類です。ひとつは、申請者が共同研究者（学界・産業界等）を10人以内で事前に働きかけて集め、申請書に記入し提出する方法です。もうひとつは、申請者の情報と取り組みたい内容（目的と計画・方法）のみを記入し、申請書に記入し提出した後に、共同研究者を募集する方法です。
- 費用は学会費からは支出しません。すべて受益者負担とします。
- 構成員全員が何らかの材料を持ち寄ることを原則とします。
- 会場場所は原則的には日科技連としますが、構成員の企業・大学などでも構いません。企業訪問による現場討論でも結構です。

2017年3月の入会者紹介

2017年3月21日の理事会において、下記の通り正会員4名、準会員12名、職域会員1名の入会が承認されました。

（正会員4名）○瀧川 道夫（クラレ）○水町 浩之（NECマネジメントパートナー）○長瀬 健一郎（日本適合性認定協会）○北川 恵美（東京医科歯科大学）

（準会員12名）○内田 佳代・磯崎 浩・LI YUZE・坂入 洸気・傳田 雅一・高橋 良輔・中尾 勇登・川又 聖史・梅村 和弘・関根 優（早稲田大学）○舟橋 京平・米澤 駿（名古屋工業大学）

（職域会員1名）○西尾 優子（統計センター）

2017年4月の入会者紹介

2017年4月19日の理事会審議において、下記の通り正会員6名、準会員13名の入会が承認されました。

(正会員6名) ○村田 雄飛 (テクノプロ)
○西脇 真理子 (デンソー) ○伊藤 世
士洋 (味の素ヘルシーサプライ) ○堀口
正之 (神奈川大学) ○青山 俊宏 (ビュー
ティーエクスペリエンス) ○栗本 英和
(名古屋大学)

(準会員13名) ○久保田 祥平 (中央大学)
○YUNARSO ANANG (山梨大学) ○
玉井 大嗣 (名古屋工業大学) ○高澤
良輔・本庄 駿平 (慶應義塾大学) ○杉
山 裕貴・河部 瞭太・西尾 友里・清
水 良太郎・水落 洋貴 (早稲田大学)
○小川 真由 (東京理科大学) ○久保田

大樹・李 洋 (電気通信大学)

正 会 員 : 1924名

準 会 員 : 55名

職 域 会 員 : 44名

賛 助 会 員 : 143社188口

公 共 会 員 : 17口

行 事 案 内

●第163回シンポジウム (関西)

テーマ : 現場に役立つビッグデータ活用方法

日 時 : 2017年6月20日(火)13:15~17:00

会 場 : 大阪大学中之島センター10階
佐治敬三メモリアルホール

プログラム :

講演1 「なぜ企業はデータ分析を活
用できないのか?」

河本 薫氏 (大阪ガス)

講演2 「サービス業におけるビッグ
データの活用」

新村 猛氏

(がんこフードサービス)

パネルディスカッション

司会 : 猪原正守氏

(大阪電気通信大学)

参加費 : 会 員4,000円 非会員6,000円

準会員2,000円一般学生3,000円

※当日払い

申込先 : 関西支部事務局

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290620](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290620)

●第396回事業所見学会 (中部)

テーマ : 物流を通じた価値創造の拠点

日 時 : 2017年7月12日(水)13:00~16:30

見学先 : 三菱重工業

名古屋誘導推進システム製作所

定 員 : 40名

申込締切 : 2017年6月23日(金)

申込先 : 中部支部事務局

代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第47年度~第48年
度(2017年11月25日総会~2018年総会)
の代議員ならびに役員選挙を次の日
程で行います。

立候補・推薦受付 :

6月19日(月)~30日(金)

投票依頼 : 7月25日(火)~28日(金)

投票締切日 : 8月31日(木)

開 票 日 : 9月15日(金)

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290712](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290712)

●第131回講演会 (関西)

テーマ : 新製品開発を巡るグローバル
レギュレーションに関わる我
が国企業の課題

日 時 : 2017年7月20日(木)13:15~16:55

会 場 : 大阪大学中之島センター10階
佐治敬三メモリアルホール

プログラム :

講演① : 『F1レギュレーションと技
術の変遷』

田中尋真氏 (本田技術研究所)

講演② : 『食品新素材の開発と国内外
のレギュレーション対応』

栗木 隆氏 (江崎グリコ)

参加費 : 会 員4,000円 非会員6,000円

準会員2,000円一般学生3,000円

※当日払い

申込先 : 関西支部事務局

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290720](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290720)

●第162回シンポジウム (中部)

テーマ : IoT時代の「つながる工場」に
おける生産性向上と品質管理
~生産システムの流れを理解し、
どのようにIoTを活用するのか~

日 時 : 2017年7月31日(月)13:00~17:00

会 場 : 名古屋工業大学 4号館ホール

定 員 : 180名

プログラム :

基調講演 : 「IoT時代の『つながる工場』
の動向」

日比野浩典氏 (東京理科大学)

事例講演① 「IoT時代の製造業の国際
動向と、過去・現在・未来に
わたって『見える』生産技術」

野中洋一氏 (日立製作所)

事例講演② 「IoT時代のプレス機とパ
ネル搬送装置における予知保全

—Ⅱ『つながる工場』活動の事例—

森健一郎氏 (オムロン)

参加費 : 会 員4,320円 非会員5,400円
準会員2,160円一般学生2,700円

申込先 : 中部支部事務局

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290731](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290731)

●第114回研究発表会 (中部)

日 時 : 2017年8月30日(水)

会 場 : 名古屋工業大学

申込締切 : 2017年8月23日(水)

申込先 : 中部支部事務局

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290830](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290830)

●第115回研究発表会 (関西) 発表募集

日 時 : 2017年9月15日(金)

9:30~17:00 (予定)

会 場 : 大阪大学中之島センター

申込締切 :

発表申込締切 : 7月6日(木)

予稿原稿締切 : 8月25日(金)必着

申込先 : 関西支部事務局

詳 細 : [http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h290915](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290915)

行 事 申 込 先

JSQCホームページ : www.jsqc.org/

本 部 : 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail : apply@jsqc.org

事務局携帯 : 090-9128-7979

中部支部 : 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail : nagoya51@jsa.or.jp

関西支部 : 530-0004 大阪市北区堂島2-4-27

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail : kansai@jsqc.org